

十一月の法話抄録

「迷いと苦しみと」

……「ことよつなら」

釈尼花伝 担当

最近、深刻な悩みのご相談を二件受けました。

内容はそれぞれですが、共通点はわが子が健全な道からはずれてしまつて、困り果てているということですね。

まったく、親としては辛いものです。受話器の向こう側から、本当に苦しいのが伝わってきます。

だけれど、この苦しさを聞かせていただくと、どちらも「このよつな子どもになるように育てた憶えはない」ということ。「あのとき、このとき、このようなこともしてやつたし、万円も掛けてきた。今となつては、取り返せるものなら取り返したい!!」と叫んでいる……。

先頃、福井威磨先生の「無償の愛」という、父母の子に対する美しい態度を読ませていただきましたが、今回のどちらも、そうとはいえないものが露出してしまっています。

自分の至らなさを認めきれないで棚に上げて、人のせいに一生懸命し

ようとしています。そして、その揚句の果てに、よかれと思つてお世話してくださつた人のことをも恨みはじめたりします。

どうしようもない苦しさ……。いふそのこと死んでしまつた方がよいのでは……まで意識しはじめます。

仏教ではこのような人間の苦しみや迷いを、よく観察されての上で教義が成り立っているのです。どうか安心して耳を傾けて聞いていただきたいと思います。

原始仏教をたずねますと、仏陀が説かれた四聖諦しじょうたいの教えは「苦」「集」「滅」「道」で示され、いずれもこれは聖なる真実ですよと語つてくださっています。(転法輪経)

一つ目の「苦」、これも確かに真実ですよ。しかもこの苦は聖なる真実ですよと。わたしたちからみると、とても嫌なものですよね。しかし、目覚めた人からみると「聖なる真実」と成つてみえているのですね。そして、人間の苦しみの「集」(集起)を

ここでは「因縁果」と置き換えてみますが、これまた、聖なる真実でありますよ、と説かれています。しかも苦の大元は、愛欲の渴愛・生存の渴愛・繁栄の渴愛とのこと。さらに

奥をたずねれば、「無明」といって、知られるべき智慧がまだ知られていない状態なのです。そして、この苦しみの「滅」に導く「道」があり、これらも聖なる真実と説いてくださっています。このひとサイクルをそれぞれの苦ごとに回してゆくことです。

また、「正しい考え方」の正見と、正思惟をはじめとする、生活上のあり方の八つも教えてくださっています。(八正道)

また、聖徳太子は「世間これ、虚仮けなり、仏のみ真なり」と明確に教示してくださっています。大きな意識転換が必要です。

ここで、この迷い、苦しみにしづられている意識から、涅槃へひるがえつた生き方のできた人の歌がとてもわかりやすいと思いますので、ご紹介します。日々親しみたいものです。

真宗宗歌

一、ふかき民法に あいまつる

身の幸なになに たとうべき

ひたすら道を 聞きひらき

まことのむね いただかん

二、とわの間より 救われし

身の幸なになに くらぶべき

六字のみ名を となえつつ

世のなりわいに いそしまん  
三、海の内外うちとの へだてなく  
みおやの徳の とうとさを

わがはらからに 伝えつつ  
みくにの旅を とともにせん

まずは勇気を起こして、智慧と慈悲の阿弥陀如来の本願に照らされているわが身を思うようにしてみませんか。そして、迷いと苦しみににっこりとさよならしましょう。

これからも真実の教えを聞思して、智慧の不足を補つて「六字のみ名を称となえつつ 世のなりわいに」いそしんでいきましょよ! 今、味わっている諸々の悪は、六字のみ名をもつて徳に転じてゆく真理であることに、耳を傾けてゆきましょよ。

六字のみ名「南無阿弥陀仏」わが子も、わが子と見るから感情的になり、狭い見方でしづつてしまふ……これは煩惱をともなつて見ているためです。

わが子はわが子のよつで、実は阿弥陀如来から賜つた子なのだ、わたくしと同じように、仏になり、如来となるよつ、ともに願われている身なのだと見てゆけますよつ。今の今! 気づかせていただきますよつよ。 合掌

心に如来を思うよつ